

2022年5月2日

## 2022年度の鉄道事業設備投資に総額288億円

～より高度な安全・安心の追求にむけて：連続立体交差事業、ホームドア新設、防犯カメラの増設、自然災害対策などを推進～

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、取締役社長：紅村 康）では、京王グループ理念である『信頼のトップブランド』の確立を目指し、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めています。鉄道事業においては、お客様や沿線にお住まいの方に信頼され、愛される鉄道になるため、「安全性の向上」や「サービスの向上」に取り組んでいます。

2022年度は、「日本一安全でサービスの良い鉄道」を目指し、連続立体交差事業を着実に推進するほか、駅や車両の安全対策、自然災害への備え、バリアフリー設備の整備などお客様の利便性向上施策に取り組むなど、安全で快適なサービスの提供を目指して、総額288億円の設備投資を行います。

### 【主な取り組み】

#### 1. より高度な安全・安心の追求

- (1) 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の推進
- (2) ホームドアや段差隙間対策などホーム安全対策
- (3) 防犯カメラの設置など車両・ホーム上における防犯・安全対策
- (4) 踏切道における安全対策
- (5) 自然災害への対応力と危機管理体制の強化

#### 2. お客様ニーズを先取りしたサービスの提供

- (1) 座席指定列車の追加導入と運行拡大
- (2) さらなるバリアフリー化に向けた施設整備の推進
- (3) 駅施設のリニューアル

#### 3. さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生

- (1) 省エネルギー施策の推進
- (2) カーボンニュートラルを実現した環境負荷の低い機器への更新

#### 4. 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

- (1) DXを活用した業務省力化等の推進

なお、2023年度以降についても安全・快適に鉄道をご利用いただくための設備投資を継続して行ってまいります。一方で鉄道事業は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う鉄道輸送人員の急激な減少により2期連続となる営業損失を計上、テレワーク等の定着により輸送需要は以前の水準には戻らないと想定されるなど極めて厳しい事業環境にあります。このような環境下においても将来にわたってより高度な安全・サービスを提供するための設備投資を継続し、公共交通機関の社会的責任を果たし続けていくために、コスト削減等の経営努力を続けるとともに、運賃の改定についても検討を行ってまいります。

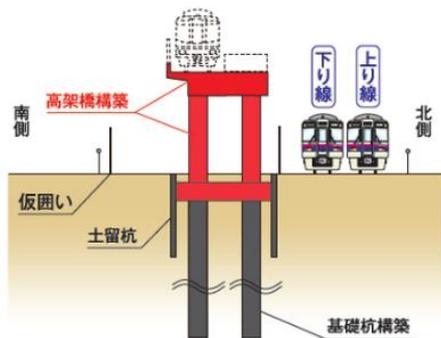
# 1. より高度な安全・安心の追求

## (1) 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業

事業主体である東京都および世田谷区・渋谷区・杉並区とともに、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業を実施しています。2022年度は、引き続き用地取得や仮線準備工・高架橋の構築などを進めるほか、新たに千歳烏山駅付近で工事に着手し、全8工区のうち7工区で工事を進めます。この事業が完了すると、笹塚駅から仙川駅間の約7.2kmが高架化され、25箇所の踏切が廃止されます。これにより、道路と鉄道それぞれの安全性が向上するほか、交通渋滞の解消や、鉄道によって分断されていた地域の一体化が図られます。



《事業区間の断面図》



《工事の進捗状況》

## (2) ホーム安全対策

### ① ホームドア

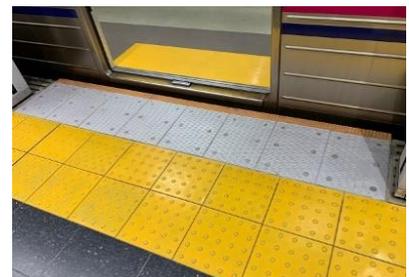
お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、笹塚駅などにおいてホームドア整備を進めます。また、全駅整備に向けた検討を進めます。



《下北沢駅 2番線ホームドア》

### ② ホームと車両の隙間対策

ホームと車両の隙間を縮小するため、笹塚駅への転落防止ゴム（くし状型のゴム）の整備を進めます。



《転落防止ゴムの整備》

### ③ 注意喚起ライン

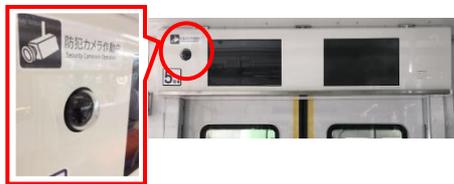
ホーム縁端部の視認性向上を目的として、武蔵野台駅などに注意喚起ラインを施工します。

### (3) 車両・ホーム上における防犯・安全対策

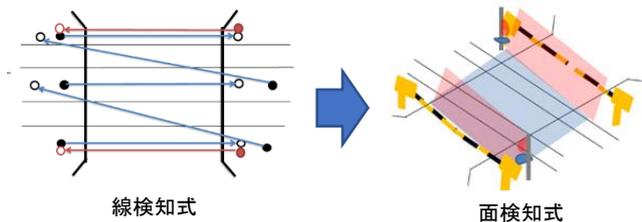
昨年、京王線布田駅～国領駅間を走行中の車内で発生した傷害事件を受けて、リアルタイム伝送機能を持つ車内防犯カメラの全車両への導入を2023年度末を目途に進めます。また、リアルタイム伝送機能を持つホーム上防犯カメラを2023年度までに全駅に設置します。

### (4) 踏切道における安全対策

踏切道内の安全性向上を図るため、障害物検知装置を従来の線検知式から面検知式に更新する工事を進めます。2022年度は調布14号踏切道と飛田給9号踏切道において実施します。さらに、西永福1号踏切道と5号踏切道において障害検知装置の新設工事を実施します。



《車内防犯カメラ》



《踏切障害物検知装置更新イメージ》

### (5) 自然災害対策

大規模地震に備えて、鉄道施設の耐震性を向上させるため、高架橋や盛土区間、トンネル部（新宿駅～笹塚駅間）などの耐震補強工事や、コンクリート製の電力柱を鋼管柱に更新する工事を引き続き実施します。

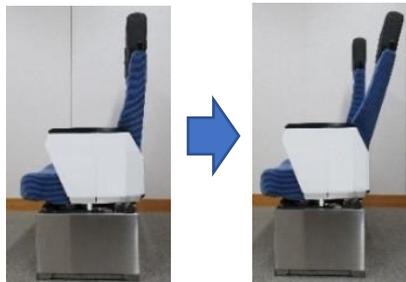
## 2. お客様ニーズを先取りしたサービスの提供

### (1) 5000系車両の新造

ご好評いただいている座席指定列車「京王ライナー」のサービス拡充を図るため、5000系新造車両1編成（10両）を増備します。この車両においては、日本初となるリクライニング機能付きロング/クロスシート転換座席を搭載します。



《5000系車両》



《リクライニングのイメージ》

## (2) 駅構内情報提供ディスプレイ多機能化

通常時は電車の発車案内や各種情報を表示する他、事故や災害などで列車の運行に遅延などの支障が発生した異常時には、支障区間や振替輸送経路などを、視覚的に分かりやすく表示する「お客さま案内ディスプレイ」について、外国語による表示を可能とする多言語対応と異常時のお客様への案内機能を向上させた多機能化を進めます。



《多言語対応のお客さま案内ディスプレイ（イメージ）》

## (3) 駅施設のリニューアル

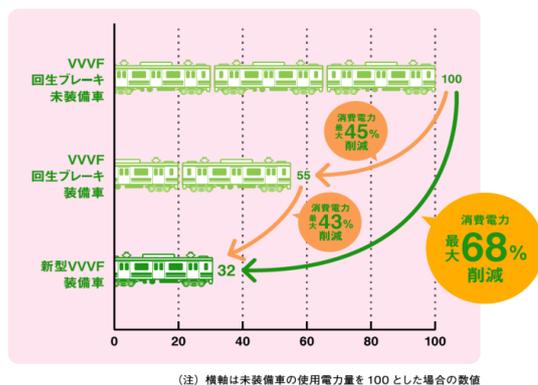
新宿駅新線口改札内のエスカレーターについて、老朽化に伴う更新工事を進めます。また、より快適にご利用いただけるよう若葉台駅・府中競馬正門前駅・多摩境駅で旅客トイレのリニューアル工事を実施します。

## 3. さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生

### (1) 省エネ対策

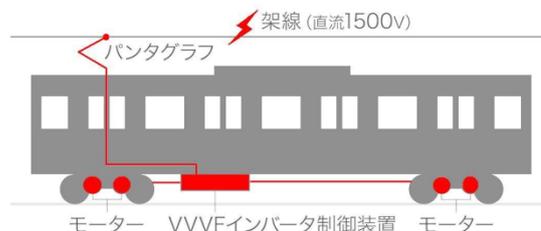
#### ① 省エネ運転や回生電力のさらなる有効活用などによる省エネルギー施策の推進

より省エネ性能の高いVVVFインバータ制御装置への更新を行い、運転用電力を削減します。2022年度は、京王線8000系1編成（10両）の工事を実施します。また車両機器情報データを活用し、京王線での省エネ運転の導入を進めます。



#### VVVFインバータ制御装置

電車の加速力や速度に応じて、電圧や周波数を変化させながらモーターを効率よく動かす装置



《8000系車両の消費電力削減効果（1編成あたり）》

#### ② 照明の省エネルギー化

駅構内の照明のLED化を推進します。2022年度は仙川駅・高幡不動駅などのホーム・コンコース照明のLED化工事を実施します。

## (2) 環境配慮型機器への更新

今年度から、更新工事を実施する変電所の変圧器について、環境性の観点から、生分解性が高いため万一漏洩した場合も環境負荷が低く、火災予防の観点から鉱油より引火点が高い植物油を使用する機器に置換を行ってまいります。これにより、従来に比べ約65%の二酸化炭素排出量を削減することができます。2022年度は長沼変電所の機器更新にあわせて実施します。

## 4. 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

### (1) DXを活用した業務省力化等の推進

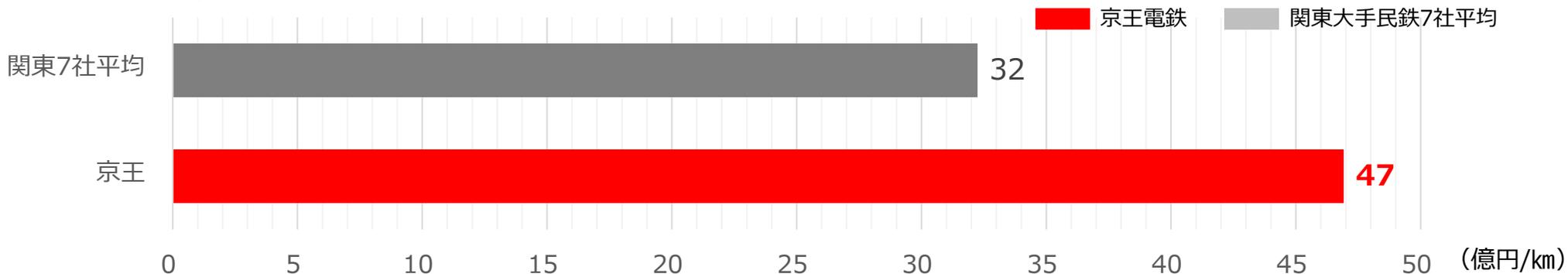
土木構造物や電気設備の維持管理業務デジタル化に向けて検査システムの構築を進めるほか、車両機器情報を活用した故障時の復旧時間短縮に向けた取り組みを進めます。

以上

<参考資料>

# これまでの設備投資と主な取り組み

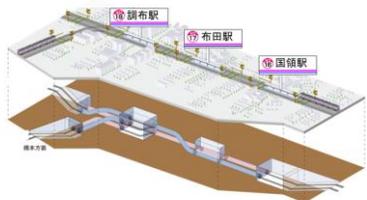
## ■ 営業キロあたり設備投資額合計（2006～2020年度）



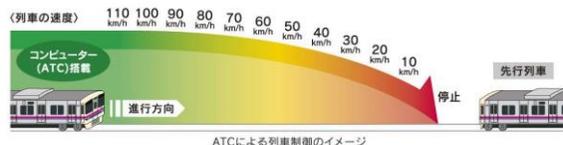
2005年の福知山線脱線事故や2006年のバリアフリー法の施行により公共交通事業者に対する安全・サービスに関わるハード整備の要請レベルが高まる中、当社は社会的使命を果たすため、これらの整備に前向きに取り組んできた。

## ■ 安全性・サービス向上への投資（約265億円/年 ※2006～2020年度平均）

調布駅付近連続立体交差工事



ATC化



耐震補強



京王ライナーの導入



ホームドア・固定式ホーム柵整備



9000系の代替新造



バリアフリールート1 ルート100%  
(2ルート目整備も複数駅で実施)



駅構内トイレの  
多機能トイレ整備率100%

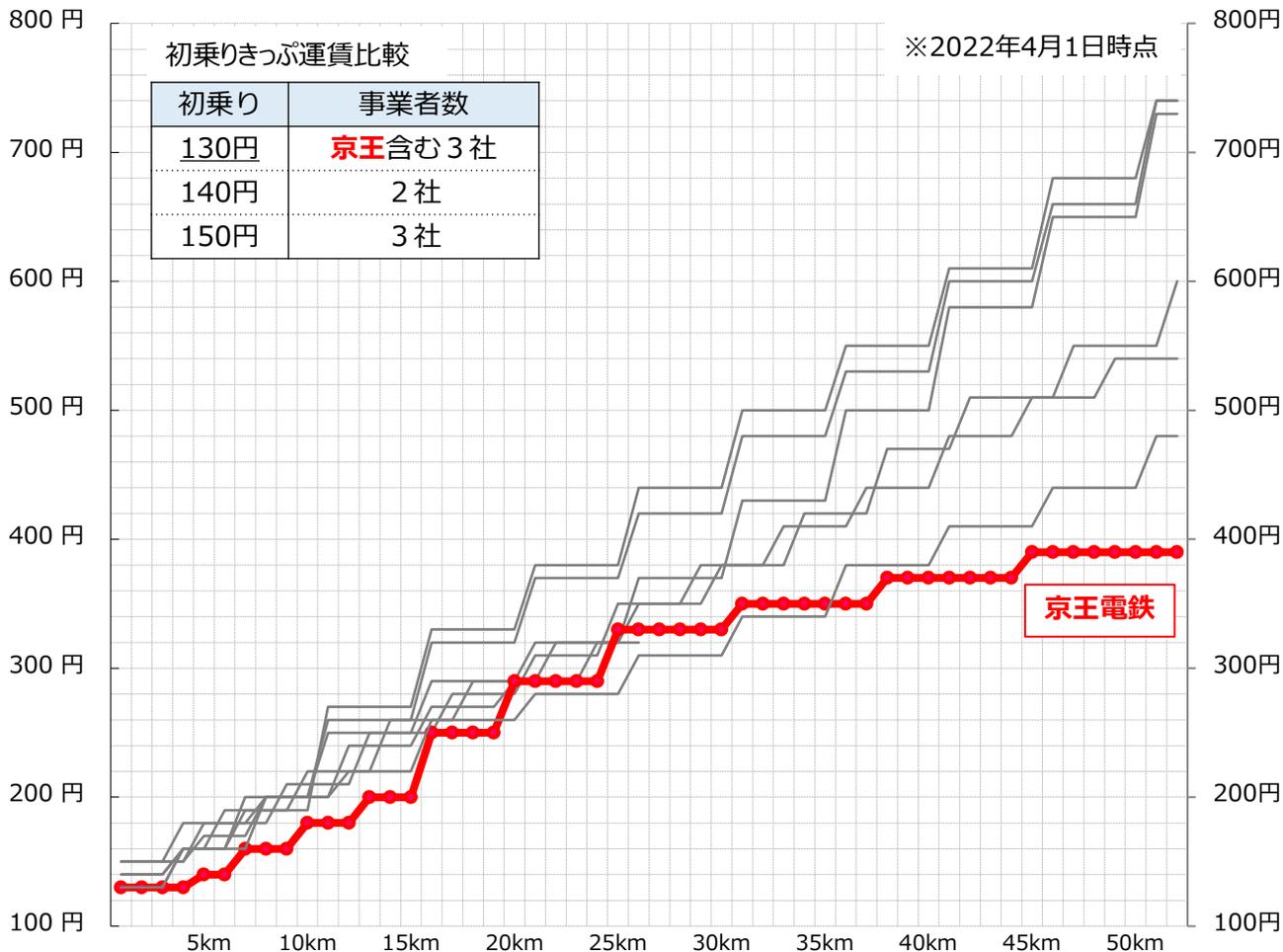


- お客様や沿線にお住まいの方に信頼され、愛される鉄道になるため、「**安全性の向上**」や「**サービスの向上**」に積極的に取り組んできた。

# 当社の運賃水準

## ■ 関東大手民鉄7社と当社の営業キロ別のきっぷ運賃比較

※関東大手民鉄7社…東武、西武、京成、小田急、東急、京急、相鉄



関東大手民鉄において、全区間で最も低廉な水準

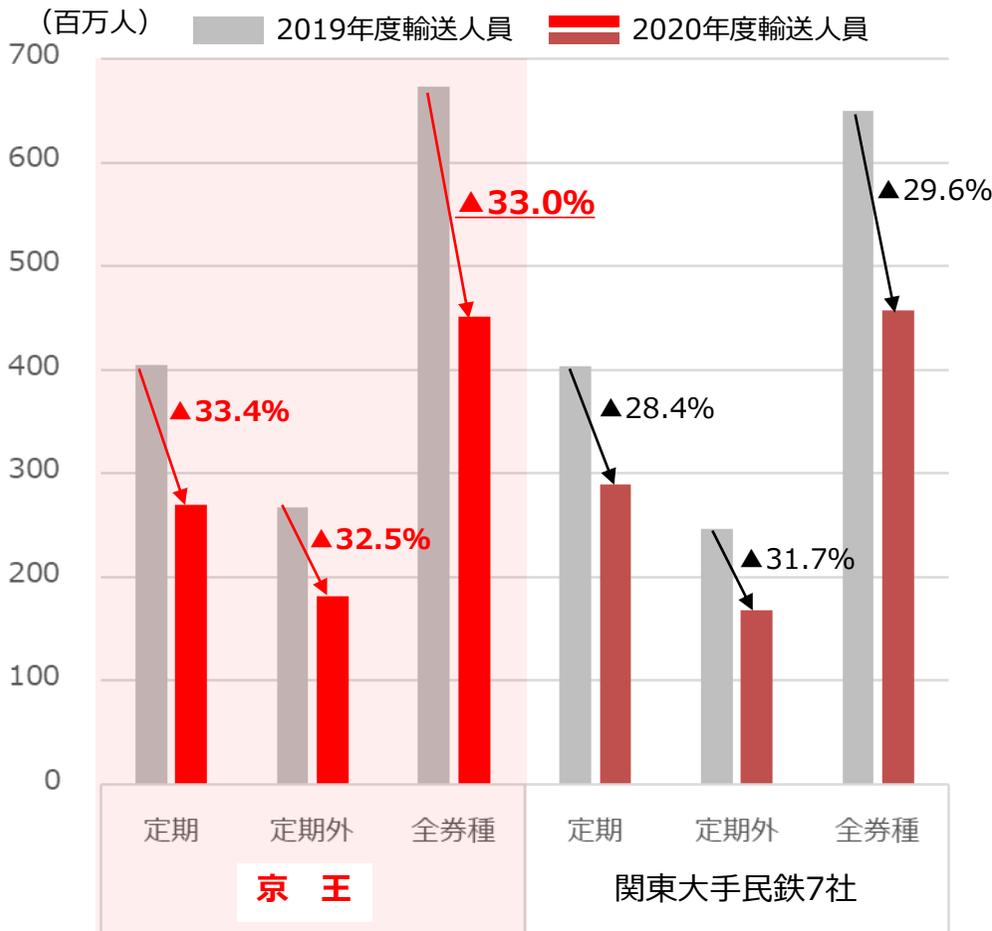
## ■ 運賃改定の推移



- 消費税率変更によるものを除き、**1995年以降運賃値上げを実施せず（1997年には値下げも実施）**
- 堅調な輸送人員の推移と経営効率化等の努力により、これまで業界最安水準の運賃を維持してきた。**

# 当社における新型コロナウイルス感染症の影響

## ■ コロナ前後の輸送人員の推移



※関東大手民鉄7社…東武、西武、京成、小田急、東急、京急、相鉄

定期/定期外ともに輸送人員が大きく減少しており、**全券種計の減少率は関東大手民鉄8社で最大 (▲33.0%)**

## 【輸送人員の減少理由】

定期外	外出自粛やイベントの中止の影響等
定期	テレワークの定着や休校、オンライン授業の影響等 (渋谷・新宿に近い都区内エリアの影響が顕著)

## 【一日平均乗降人員・2020年度前年増減率】

(単位：%)

	新宿	渋谷
定期外	▲36.4	▲36.1
定期	▲35.3	▲40.0
計	▲35.7	▲38.5

## ■ 直近の鉄道事業営業収支

(単位：億円)

	2019年度	2020年度	2021年度
営業収益	848	581	641
営業費用	744	678	655
営業利益	104	▲97	▲14

費用削減は進めているものの**2期連続の営業損失**を計上

- ・ 感染症拡大に伴う鉄道輸送人員の急激な減少により鉄道事業は**2期連続の営業損失**を計上した。
- ・ テレワーク等の定着により**輸送需要は以前の水準には戻らない**と想定されるなど、**鉄道事業は極めて厳しい事業環境**にある。

# コスト削減と運行維持への取り組み

## ■コスト削減の取り組み

コロナ禍における取り組み（緊急的な対策）

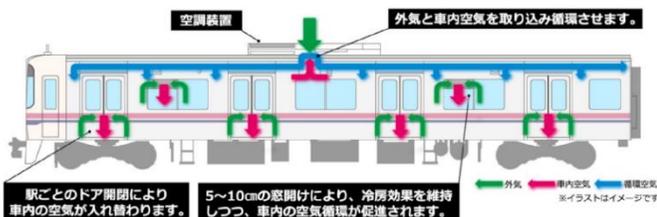
項目	主な取り組み
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>更新周期の延長</li> <li>投資判断の厳格化、施策の見直し</li> </ul>
修繕経費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>修繕費等保守費の削減、実施時期の見直し</li> </ul>
人件費	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員、管理職の給与削減</li> <li>従業員の手当、賞与の削減</li> <li>定員の見直し</li> </ul>

中長期的な取り組みについても検討（継続的な対策）

項目	主な取り組み
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ設備の積極的な導入</li> </ul>
修繕経費等	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXを活用した鉄道施設保守の最適化</li> <li>省エネ運転の実施</li> </ul>
人件費	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI・IoT等の活用による業務省力化等</li> </ul>

## ■運行維持に向けた取り組み

お客さまにより安心・快適に電車をご利用いただくため、新型コロナウイルス感染症等の感染予防に向けた様々な取り組みを実施、また京王線車内傷害事件を受けて警備員による駅構内巡回の強化、京王ライナー等への列車警戒添乗を実施  
2022年3月のダイヤ改正では、日中時間帯の運行本数維持、京王ライナーの明大前駅停車、定時性向上等の利便性向上策を実施



- 厳しい事業環境にあることを受け、あらゆる面での**コスト削減**を実施
- 公共交通機関としての使命を果たすため、**コロナ前と遜色のない鉄道サービス提供**を継続

# 当社が直面している課題と今後の取組み

## 直面している『4つの重要課題』

### 事業継続のための安全対策

#### ■京王線車内で発生した 傷害事件対応

信頼を揺るがす重大な危機であり、再発防止のため高度な安全・防犯対策を速やかに実施

#### ■激甚化する 自然災害への対策

大型台風や首都直下型地震、大規模噴火などの自然災害を想定した対策を継続して実施

### より積極的な社会課題の解決

#### ■大規模工事の着実な推進

京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業を推進し、踏切解消による事故の減少や渋滞緩和等を図る

#### ■バリアフリー設備の整備推進

子育て・シニア世代の方がこれまで以上にご利用しやすいよう、バリアフリー設備の整備を実施

## 今後の取組み

### 当社のあるべき姿

## 『日本一安全でサービスの良い鉄道』

### あるべき姿を支える『4つの柱』

より高度な安全・  
安心の追求

お客様ニーズを先取りし  
たサービスの提供

さらなる社会貢献を通じ  
た地域・社会との共生

未来を見据えた盤石な  
事業運営体制の構築

将来にわたってより高度な安全・サービスを提供するため、『4つの柱』に沿った設備投資を**コロナ前を超えた水準で実施・継続**する。

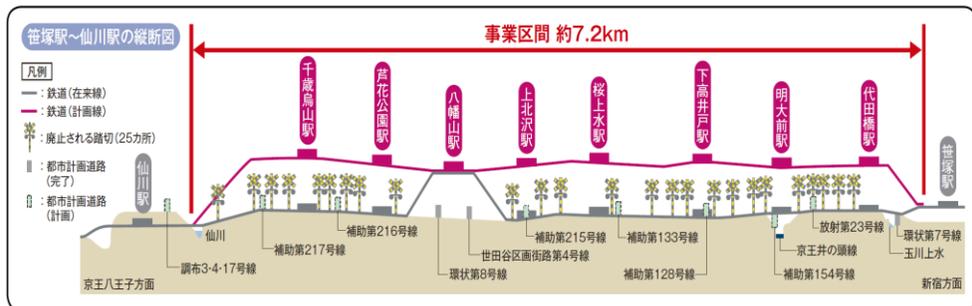
- お客様の安全確保と地域社会の課題解決に貢献することが、鉄道事業の存続・発展には不可欠
- 改めて、『**日本一安全でサービスの良い鉄道**』となることを目指す

# 今後の主な取り組み

## より高度な安全・安心の追求

### ■京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業

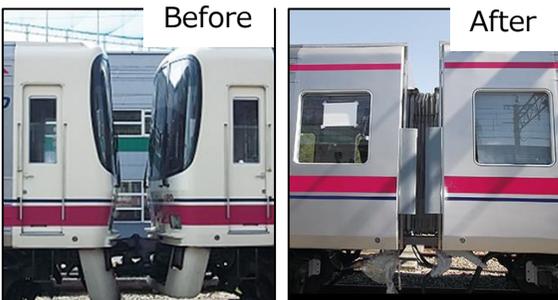
道路と鉄道を立体交差化し、25か所の踏切を廃止する京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業について、引き続き事業主体である東京都とともに用地取得や高架化工事などを進める。



《事業区間の断面図》

### ■車両やホーム上における防犯・安全対策

京王線車内で発生した傷害事件対応として、リアルタイム伝送機能を持つ車内防犯カメラおよびホーム上防犯カメラを2023年度末を目途に全車両・全駅に設置する。また、車両併結による車内通路非貫通の解消や対話式車内非常通報装置の整備等に対応するための車両新造を進める。



《車両新造による車内通路貫通化イメージ》



《車内防犯カメラ》

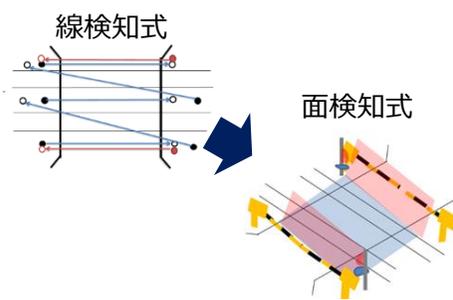
### ■ホーム安全対策

お客様のホームからの転落や列車との接触事故を未然に防止するため、ホームドア整備を順次進めるとともに、全駅整備に向けた検討を進める。また、ホームと車両の段差・隙間を縮小するため、転落防止ゴムの整備やホームのかさ上げを行う。



### ■踏切道における安全対策

踏切道内の安全性向上のため、障害物検知装置を従来の線検知式から面検知式などへ更新する工事を進める。



《踏切障害物検知装置更新イメージ》

### ■自然災害対策

台風や地震など激甚化する自然災害への備えとして、耐震補強工事や線路脇斜面を防護する工事等を進める。



# 今後の主な取り組み

## お客様ニーズを先取りしたサービスの提供

### ■ 座席指定列車サービスの拡充

「京王ライナー」のサービス拡充に向けた5000系車両の増備や、一部座席指定列車の導入等による終日運行の検討を進める。



《5000系車両 (Mt.TAKAO号)》

### ■ 駅施設・車両の利便性向上

駅施設のリニューアルや車体改修に合わせた車いす・ベビーカースペースの全車両への拡大を進め、より快適にご利用いただける駅・車両の整備を推進する。また、バリアフリールート2ルート目のさらなる整備について検討を進める。



《車いす・ベビーカースペース》



《旅客トイレリニューアル (イメージ)》

### ■ 新しい移動のきっかけづくり

子育て・シニア世代の外出を応援・促進する新規企画券や、沿線内外施設と連携した新規企画券の造成を進める。

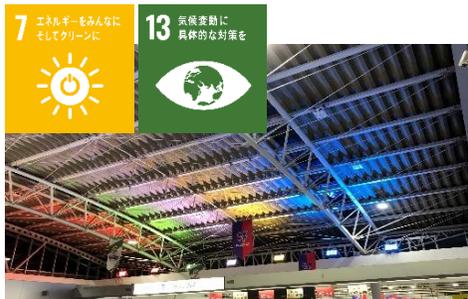


《2021年度新規発売した企画券例》

## さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生

### ■ 省エネ対策

照明設備のLED化や、より省エネ効果の高いVVVFインバータ制御装置への更新等を推進する。



《照明のLED化》

### ■ 環境配慮型機器への更新

環境負荷の低減に向け、間伐材を使用したベンチの設置や植物油使用変圧器への更新等を実施する。

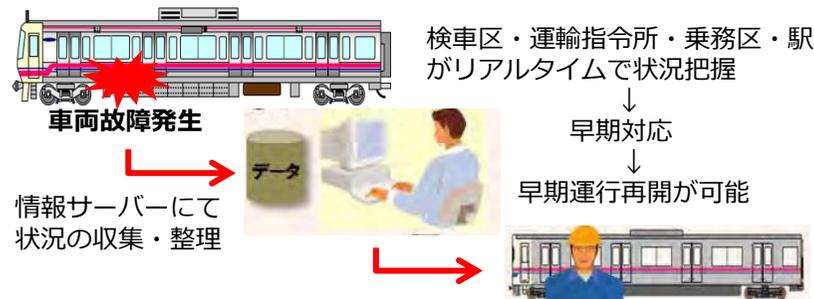


《環境配慮型変圧器》

## 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

### ■ DXを活用した業務省力化等の推進

土木構造物や電気設備の維持管理業務のデジタル化に向けて検査システムの構築を進めるほか、車両機器情報を活用した故障時における復旧時間短縮に向けた取り組みを進める。



《故障時の復旧時間短縮のイメージ》